

大館北秋田地域林業成長産業化協議会

再造林推進部会

(作業システム検討会)

協議記録

日時：令和2年10月15日（木）10：00～12：00

会場：大館市岩瀬字繫沢 市有林（現地）／五色湖ロッジ

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R2.10.15再造林推進部会（作業システム検討会）出席者名簿

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	
2	素材生産者	(有)阿部林業	(欠席)		
3		(有)畠山造林	代表取締役	佐藤 四郎	
4		(有)花田造材部	(欠席)		
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	
7		(有)山田造材部	総務担当	菊地 和俊	
8		山一林業(株)	(欠席)		
9		石上木材	(欠席)		
10		小林林業	(欠席)		
11		(有)佐栄林業	(欠席)		
12		(有)中田工業	(欠席)		
13		(株)石川組	総務部	成田 勝	
20		製材・加工事業者	ニツ井パネル(株)		野呂 満人
27	木材流通事業者	物林(株)	資材グループ長	田口 慎二	
			国産材戦略室	齊藤 政子	
			国産材戦略室	齋藤 のぞみ	
			国産材営業室	関口 祐之	
			顧問	森 英樹	
28	学識経験者	秋田県立大学木材高度加工研究所	准教授	足立 幸司	
29	市村	大館市	林政課長補佐	小棚木 信晴	
			林政課木材産業係主査	赤坂 祐幸	
			林政課木材産業係主任主事	千葉 泰生	
			林政課木材産業係会計年度任用職員	安部 千夏	
			林政課森林整備係主査	安保 貴洋	
30	北秋田市		農林課林業振興係副主幹	藤田 学	
			農林課林業振興係主事	長岐 英泰	
31		上小阿仁村	(欠席)		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	代表取締役	高田 克彦	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	行政機関	米代東部森林管理署	署長	一ノ宮 秀和	
			森林技術指導官	吉川 浩人	
米代東部森林管理署上小阿仁支署		総括森林整備官	古川 博哉		
		主任森林整備官	福司 一久		
		森林整備官	今野 梢		
3		秋田県農林水産部	(欠席)		
4		秋田県北秋田地域振興局	森づくり推進課長	春日 進	
			森づくり推進課主幹兼班長	金 道尋	
			森づくり推進課主幹兼班長	工藤 純一	
			森づくり推進課副主幹	近藤 雄樹	
			森づくり推進課主幹	加藤 徳子	

再造林推進部会では、協定フィールドにおいて提案された作業システムについて意見交換を行い、本地域に適した作業システムの検討を行いました。

【協議内容】

(1) 概要説明

＜事務局＞

- ・当日スケジュールについて説明。

(2) 現地視察

- ・作業システムを作成した協定フィールド（現地）を視察

(3) 作業システム発表

- ・自社の考えに基づいて作成提案した作業システムについて5事業者より提出があり、4事業者が発表を行った。

(4) 意見交換

- ・今回のような林道脇の平坦地形では、造材歩留は0.80以上を見込める。搬出条件のよい場所では、造材歩留を上げる採材・搬出の工夫により収益の向上、伐採後の地拵え・植栽作業の軽減につながる。
- ・現状、この地域での大苗の想定サイズは40～45cm程度（2年生苗）。条件の良いところでは、60cmなどより大きなサイズで植栽密度をさらに落とすことも考えられる。枝条処理を綺麗に行い、植栽適期に安い普通苗（裸苗）を採用することも工夫の一案。
- ・保育作業は主伐材の利用先を想定する必要がある。利用先に応じて手のかけ方を変える必要がある。
- ・機械の性能など各々の条件のもとで作成してもらったが、それ以外にも検討整理表には書き切れない工夫もあると思われ、それを掘り下げて議論・共有できると更なる低コスト化に繋がるのではないか。
- ・伐採作業で30m³/人日以上、造林作業（地拵え・植栽）で500本/人日以上という労働生産性での提案もあったが、机上での作成提案ということもあり数値は様々。実績データも取りながら、どのような施業が適しているのか検討していきたい。などの意見が出された。

3 講評

＜オブザーバー（米代東部森林管理署）＞

- ・伐採の仕方で収入が大きく変わる。
- ・植栽はスギだけでなくカラマツも樹種選択できれば、もっと変わってくるだろう。

＜オブザーバー（秋田県北秋田地域振興局）＞

- ・各社のやり方の違いで生産性が変わってくる。
- ・コストダウンの意識も感じられた。

＜アドバイザー（秋田県立大学木材高度加工研究所）＞

- ・今回のように各社を比較する機会はなかなかない。施業方法を見直すきっかけとして活かしてほしい。
- ・50年、60年先の丸太を手にする人に合わせて経営を考えて行ってほしい。

～閉会～

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 R2.10.15 再造林推進部会
(午前_作業システム検討会)

